

## 記入例

## 特定施設の構造等変更届出書

令和 □年 □月 □日

横須賀市上下水道事業管理者  
上 下 水 道 局 長 殿住 所 横須賀市△△町○丁目○  
申請者 氏 名 株式会社○○石油  
電 話 代表取締役 □□ △△  
0XX(XXX)局 XXXX 番

下水道法第12条の4の規定により、特定施設の構造等の変更について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	株式会社○○石油 △△給油所	※ 整理番号	
工場又は事業場の所在地	横須賀市 □町○丁目×番△号	※ 受理年月日	年 月 日
特 定 施 設 の 種 類	第71号 自動式車両洗浄施設	※ 施設番号	
△ 特 定 施 設 の 構 造 (特定施設の使用の方法、 汚水の処理の方法、 下水の量及び水質、 用水及び排水の系統)	別紙のとおり。	※ 審査結果	
		※ 備 考	

## 備考

- △印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、表等を利用すること。
- ※印の欄には、記載しないこと。
- 変更のある部分については、変更前及び変更後の内容を対照されるものとすること。
- 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本工業規格A4とすること。

## 1 特定施設の構造

届出書内の汚水量や洗車機における使用水量、除害施設の滞留時間などは、すべて見直してください。以前の届出書の数値が現状の値や計画値と異なる場合は現状の数値または予想値などを記載してください。

## イ 特定施設の形式、構造、主要寸法及び能力並びに当該特定施設及びこれに関連する主要機械又は主要装置の配置

名称	形式	構造	主要寸法	能力	備考
第71号 自動式車両洗浄施設					
門型洗車機	○○社製△△型 ××式	カバー全面鋼板 ナイロン製ブラシ 防爆型電動機	○mm×○mm×○mm (門型洗車機部分)	○台／時 (標準洗車時) ○分／台 (標準洗車時)	1台(廃止)
門型洗車機	○○社製□□型 ◇◇式	カバー全面鋼板 ナイロン製ブラシ 防爆型電動機	○mm×○mm×○mm (門型洗車機部分) (詳細は第○図または別添カタログを参照)	○台／時 (標準洗車時) ○分／台 (標準洗車時)	1台(新設)
下部洗浄機	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○

あれば、門型洗車機と同様に記載願います。

メーカー名や製品名、  
製品番号等の設置した施設が  
特定できるよう記載

施設の主要部分の材質を記入

施設全体の寸法がわかる  
図面等を添付してください。

設置数や新設・変更等を記入。

最大能力となるモード名等を記入。

(配置は、添付第1図のとおり)

全体配置図にて図示しても可

□ 特定施設に係る工事の着手及び完成の予定年月日並びに特定施設の使用開始の予定年月日

工事着手予定年月日 令和 □年 □月 □日 特定施設の設置工事開始予定日を記入

工事完成予定年月日 令和 △年 △月 △日 特定施設の設置工事完了予定日を記入

使用開始予定年月日 令和 ○年 ○月 ○日 特定施設の使用開始予定日を記入

ハ その他参考事項

今回の届出は、老朽化した洗車機を更新するための届出である。

届出の内容の概要を記入

## 2 特定施設の使用の方法

イ 特定施設の設置場所(添付第1図のとおり) 全体配置図に記入

ロ 特定施設を含む操業の系統(添付第2図のとおり) フローチャートを作成添付する。(別添参照)

## ハ 特定施設の使用時間間隔及び1日当りの使用時間並びにその使用の季節的変動の概要

名 称	使用時間間隔	1日当りの使用時間	季節的変動の概要	備考
第71号 自動式車両洗浄施設				
門型洗車機 下部洗浄機	9:00 ~ 22:00	約1時間40分 (5分/台×20台/日)	なし	

特定施設の使用時間帯を記入

特定施設の稼働時間を見込み(最大)で記入

別紙(1)の施設名称を記入

## 二 特定施設を含む作業工程において使用する原材料(消耗資材を含む)の種類、使用方法及び1日当りの使用量

名 称	使用原材料の種類	使用方法	1日当りの使用量	備考
第71号 自動式車両洗浄施設  門型洗車機および 下部洗浄機	洗車用水  中性液体洗剤 (商品名(品番等) : *****)  液体ワックス (商品名(品番等) : XXXXXX)	スプレーして使用  洗車用水と混ぜて スプレーして使用  スプレーして使用	1台当り平均60ℓ 60ℓ×20台=1,200ℓ  1台当り平均200ml 200ml×20台=4ℓ  1台当り平均70ml 70ml×20台=1.4ℓ	△△社製 (化学物質等安全データ シート (SDS) を添付)  □□社製 (化学物質等安全データ シート (SDS) を添付)

使用するすべての原材料等を記入

3 汚水等の処理の方法

イ 汚水等の処理施設の設置場所(添付第1図のとおり) 全体配置図に記入

□ 汚水等の処理施設に係る工事の着手及び完成の予定年月日並びに使用の開始の予定年月日

工事着手予定年月日 年 月 日

工事完成予定年月日 年 月 日 変更のない場合、日付は不要

使用開始予定年月日 年 月 日

## ハ 汚水等の処理施設の種類、形式、構造、主要寸法及び能力並びに汚水等の処理の方式

種類	形式	構造	主要寸法	能力( $m^3$ /日)	処理の方法	備考
油水分離槽(汚水)	重力式油水分離槽(吸着剤付)	コンクリート構造	$○mm \times ○mm \times ○mm$ (内寸法) (詳細は第○図参照)	有効容量 $○ m^3$	重力式油水分離吸着	1台(変更無) 別途、設計計算書を添付
油水分離槽(雨水)	□□社製△△型	F R P 製	$○mm \times ○mm \times ○mm$ (内寸法) (詳細は別添カタログを参照)	有効容量 $○ m^3$	重力式油水分離吸着	1台(変更無)

既製品の場合、メーカー名や製品名、  
製品番号等の設置した施設が特定  
できるよう記載

カタログか図面等の  
構造や寸法の詳細が  
わかる図を添付

有効容量を記入

## 二 汚水等の処理の系統(添付第3図のとおり)

図面やカタログ等があれば添付

含油排水は、油水分離槽で油分を分離した後、油吸着材を通して公共下水道へ放流。

分離した浮上油は月2回の頻度で産業廃棄物処理業者が、槽内の沈砂および含油水をバキューム車で吸い取って搬出し、処分を行っている。

油吸着材は水切りして保管し、産業廃棄物処理業者に処分を委託している。

## ホ 汚水等の集水及び汚水等の処理施設までの導水の方法(添付第1図のとおり)

全体配置図に記入(系統別に色別とすること)

## へ 汚水等の処理施設の使用時間間隔及び1日当りの使用時間並びにその使用の季節的変動の概要

処理施設の名称	使 用 時 間 間 隔	1日当りの使用時間	季節的変動の概要	備 考
油水分離槽(汚水)	9:00 ~ 22:00  施設の使用時間帯を記入	13時間  実稼働時間を記入	なし	
	降雨時のみ			

## ト 汚水等の処理施設において使用する消耗資材の1日当りの用途別使用量

処理施設の名称	消 耗 資 材 名	用 途 別	1日当り使用量	備 考
油水分離槽(汚水)	油吸着材	吸着	月2回(500g/回)交換	
	油吸着材	吸着	適宜 (月2回~1回/2か月)	
 処理施設で使用する消耗資材を用途別に使用量を記入				

pHは、通常の変動幅と最大の変動幅の二通りを記載

チ 汚水の処理施設の使用時における当該汚水の処理施設による処理前の汚水の水質の通常の値及び最大の値並びに当該汚水の通常の量及び最大の量

No.8

pHは、通常の変動幅と最大の変動幅の二通りを記載

チ 汚水の処理施設の使用時における当該汚水の処理施設による処理後の汚水の水質の通常の値及び最大の値並びに当該汚水の通常の量及び最大の量

No.9

施設名 水量・水質		処理後汚水量 (m <sup>3</sup> /日)		処理後水質																							
				pH		BOD (mg/L)		COD (mg/L)		SS (mg/L)		ノルマルヘキサン抽出物質含有量 鉱油類 (mg/L)		動植物油脂類 (mg/L)		窒素 (mg/L)		磷 (mg/L)		フェノール類 (mg/L)		銅 (mg/L)					
		通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大				
油水分離槽(汚水)		2.7	3.0	6~8	5~9					10	15	3.0	5.0														
油水分離槽(雨水)		雨天時		6~8	5~9					10	15	3.0	5.0														
溶解性鉄 (mg/L)		溶解性マンガン (mg/L)		沃素消費量 (mg/L)		クロム (mg/L)		ニッケル (mg/L)		カ (												キル水銀 (mg/L)	ポリ塩化 ビフェニル (mg/L)	トリクロロ エチレン (mg/L)			
通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大		
テトラクロロ エチレン (mg/L)		シクロロ メタン (mg/L)		四塩化炭素 (mg/L)		1,2-ジクロロ エタン (mg/L)		1,1-ジクロロ エチレン (mg/L)		シス-1,2-ジクロロ エチレン (mg/L)		1,1,1-トリクロロ エタン (mg/L)		1,1,2-トリクロロ エタン (mg/L)		1,3-ジクロロ プロパン (mg/L)		チウラム (mg/L)		シマジン (mg/L)		チオペン カルブ (mg/L)		ベンゼン (mg/L)		セレン (mg/L)	ほう素 (mg/L)
通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大		
ふつ素 (mg/L)		1,4- ジオキサン (mg/L)		ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)		(mg/L)		(mg/L)		(mg/L)		(mg/L)		(mg/L)		(mg/L)		(mg/L)		(mg/L)		(mg/L)		(mg/L)		(mg/L)	
通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大		

設計計算書で予想される水量・水質の通常値と最大値を記入  
水量は前頁と同じ値を記入

## リ 汚水等の処理によって生ずる残さの種類及び1月間の種類別生成量並びに処理の方法の概要

残さの種類	生成量(t/月)	処理の方法の概要	備考
廃油(分離油)	〇〇(m <sup>3</sup> /月)	〇〇株式会社に処分委託	契約書の写しを別添
油吸着材	〇〇(kg/月)	〇〇株式会社に処分委託	契約書の写しを別添

汚水の処理によって生ずる残渣の種類、一ヶ月の生成量(発生量)と  
その処理方法について記入。  
なお、業者に処理を委託している場合は契約書の写しを添付。

## ヌ 排出水の公共下水道への排出の方法(排出口の位置及び数並びに排出先を含む。)

(添付第1図のとおり)

全体配置図にて図示しても可

## ル その他参考事項

pHは、通常の変動幅と最大の変動幅の二通りを記載

## 別紙(4)

## 4 下水の量及び水質

### 別紙(3)チ(No. 9)の水量水質と整合させる

#### イ 特定事業場の排水口における排出水の汚染状態

No.11

5 用水及び排水の系統

イ 用水及び排水の系統(添付第1図のとおり)

全体配置図にて図示しても可

□ 用途別用水使用量及び排水量(単位 : m<sup>3</sup>/日)

	上水道	工業用水道	地下水	循環用水	その他	計(用水)	計(排水)	備考
ボイラー用水								添付第5図 参照 用排水バランスシート を添付
原料用水								
冷却水(間接)								
冷却水(直接)								
めっき用水								
酸、アルカリ 洗浄用水								
その他洗浄用水	2.7					2.7	2.7	
生活用水	1.5					1.5	1.5	
その他								
合計	4.2					4.2	4.2	

## 参考事項

(項目選定のものは該当項目を○で囲むこと。)

資本額	○○○万円	従業員数	(全社) ○○人 (当給油所) ○○人
主要製品	ガソリン等・整備・洗車	操業時間	○○時～○○時
用途地域	準工業地域	敷地面積	○○○m <sup>2</sup>
		建物面積	○○m <sup>2</sup>
付近見取図 (案内図)	下記のとおり 別添のとおり	電話番号	(本社) ○○○-○○○○ (当給油所) ○○○-○○○○
担当部課係	○○部○○○○課	担当者	○○ ○○ <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">届出実務担当者 を記入</span>
他法令による許可・届出の状況 (手続)	神奈川県生活環境の保全等に関する条例	不要 未了・完了	○○年○月○日 提出 年月日許可・受理
	騒音規制法	不要 未了・完了	年月日 提出 年月日 受理
	大気汚染防止法	不要 未了・完了	年月日 提出 年月日 受理

(地図) 至久里浜 △△線 至横浜

○○駅

ラーメン店

とんかつ屋

当給油所

国道○○号線

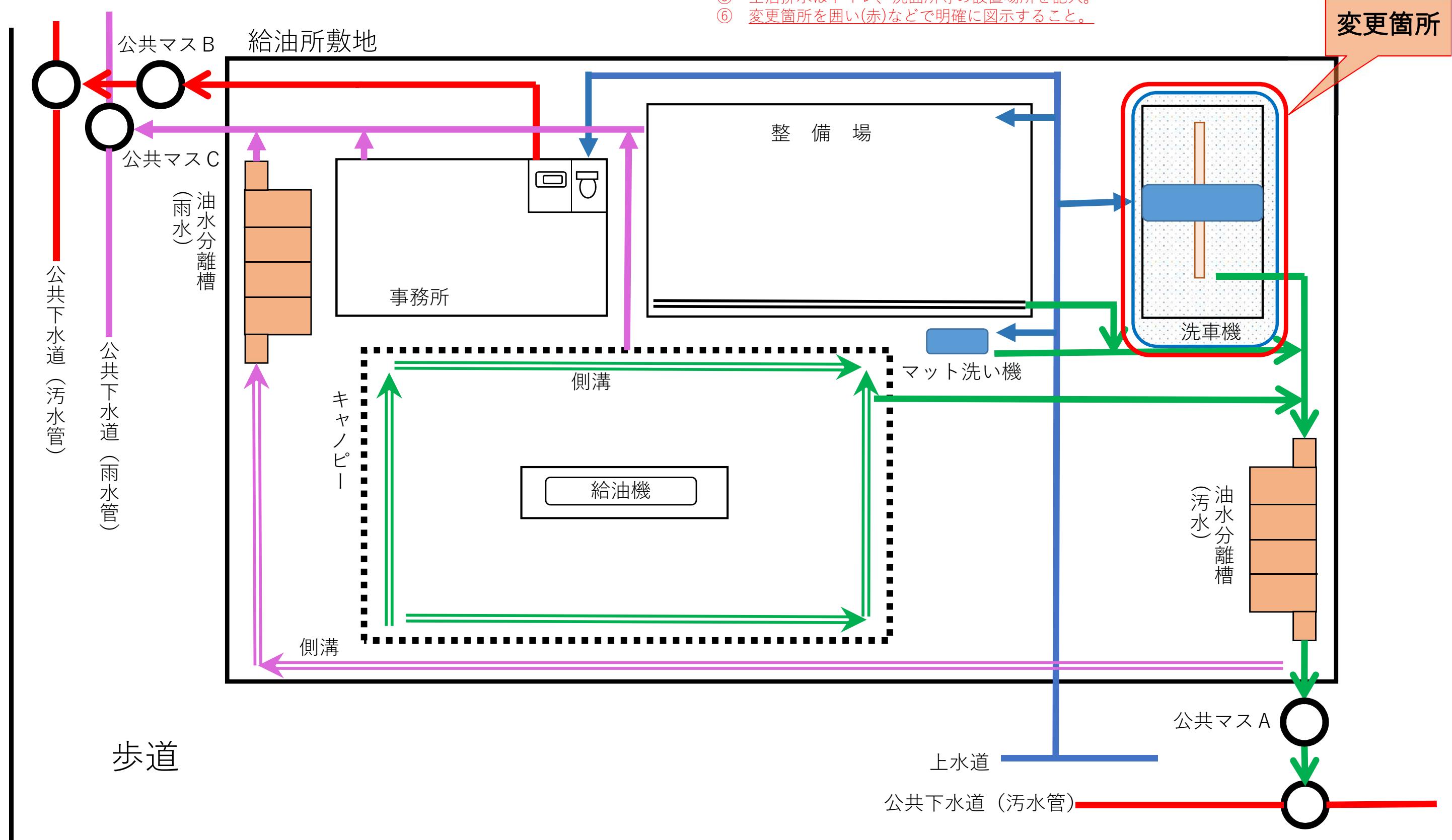
※著作権のある地図等の使用に際しては、その規約に従っていただきますよ  
お願ひいたします。

添付第1図

- ・主要機械又は装置の配置(別紙1-1-1)
- ・特定施設の設置場所(別紙2-2-1)
- ・汚水等の処理施設の設置場所(別紙3-1-1)
- ・汚水の集水及び処理施設までの導水方法、公共下水道への排出方法(別紙3-2-ホ,別紙3-6-ヌ)
- ・用水及び排水の系統(別紙5-1)

(注)

- ① 雨水系統も記入。
- ② 建屋が複数階の場合、各階別にすべて記入および各階の用排水のつながりが分かるように明記。
- ③ 生活系と工程系が合流している場合には合流後から工程系とする。
- ④ 給排水別に色分けすること。筆記の場合、蛍光ペンや消えるボールペンは不可。
- ⑤ 生活排水はトイレ、洗面所等の設置場所を記入。
- ⑥ 変更箇所を囲い(赤)などで明確に図示すること。

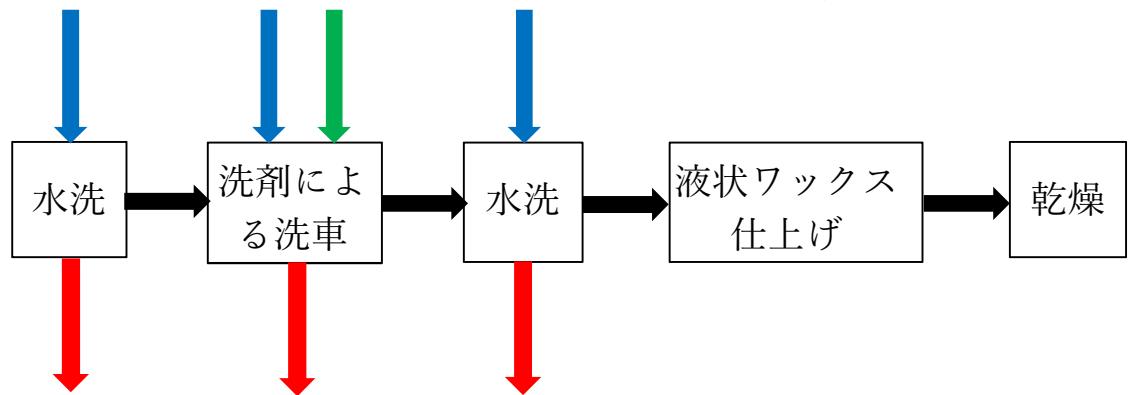


(例)

添付第2図 (特定施設を含む操業の系統)

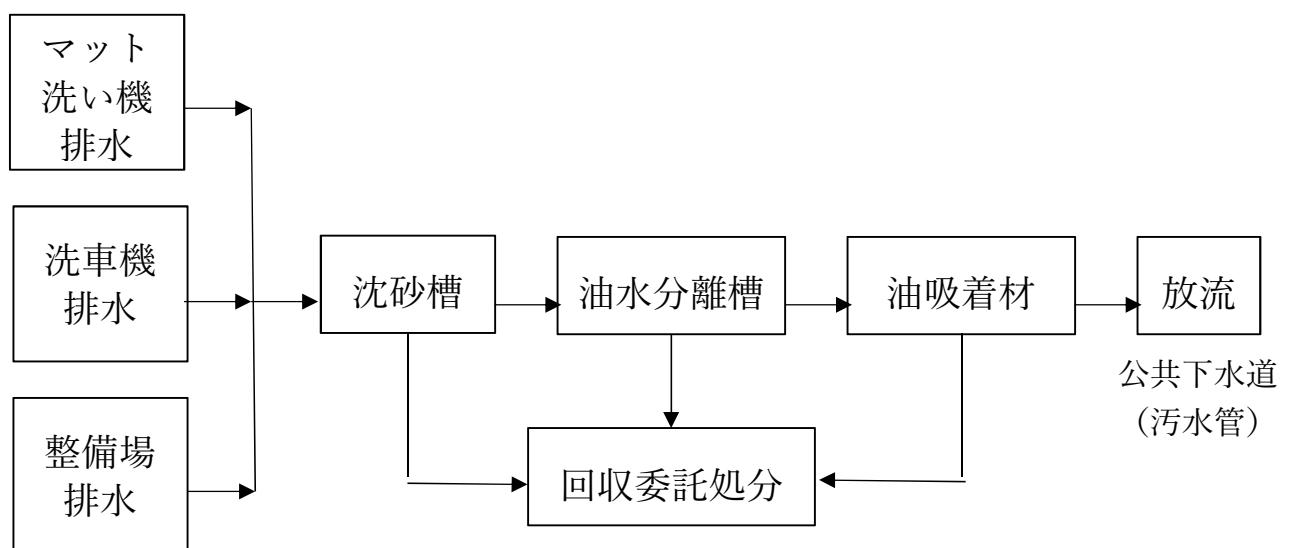
自動式車両洗浄の工程  
→ 作業の流れ

(注)  
用排水は色分けすること  
(例)  排水(赤)  
 用水(青)  
 洗剤(緑)



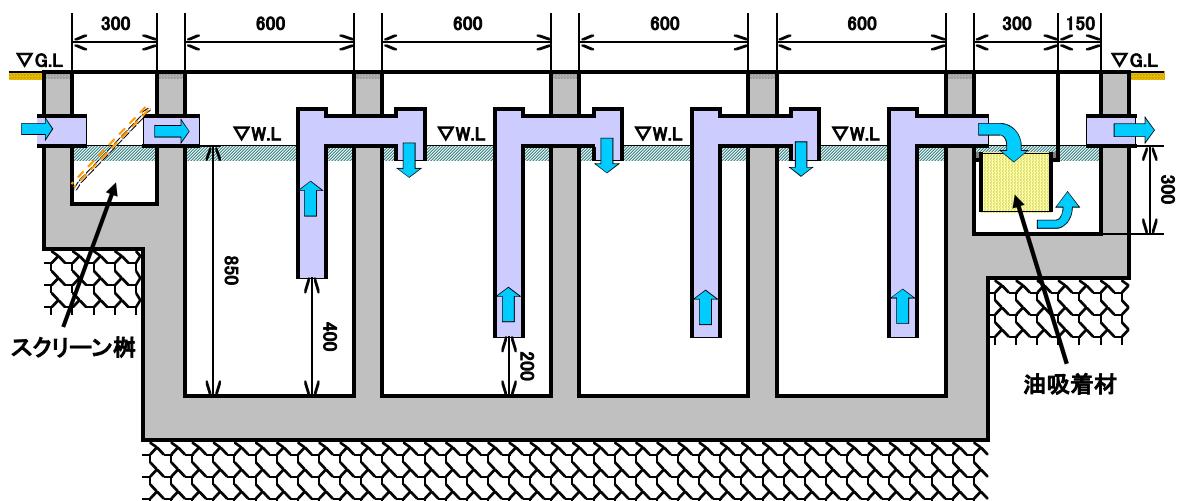
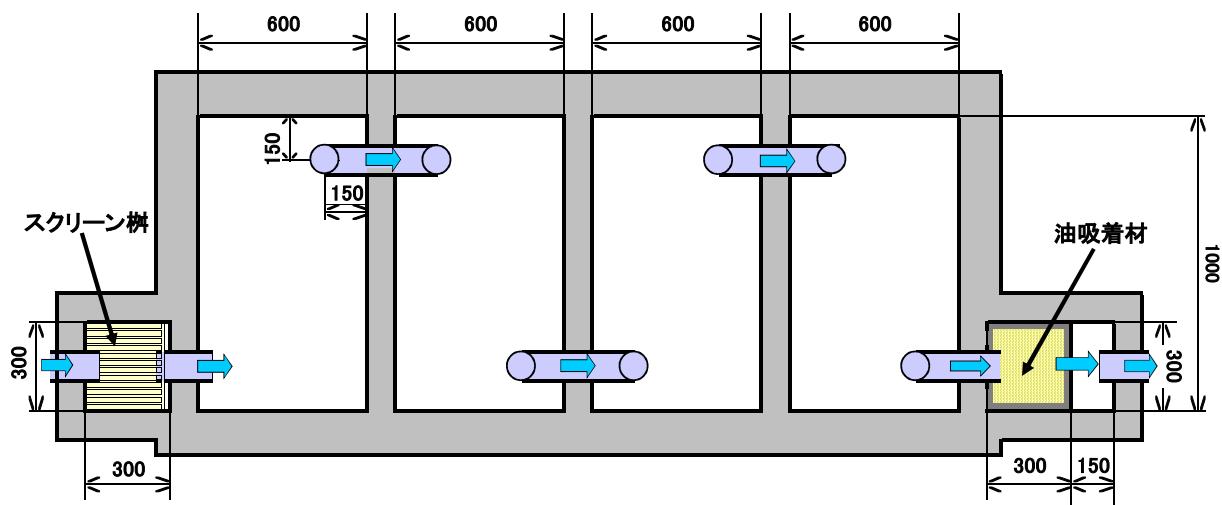
添付第3図

・排水処理工程図 (別紙3-2-ニ)



添付第4図 (別紙3-1-ハ)

油水分離槽構造図



有効容量 2.04m<sup>3</sup>

## 設計計算書

### ○門型洗車機

1台当たり使用水量 ○ℓ／台 (標準洗車時)

1台当たり洗車時間 ○分／台 (標準洗車時、入替及び操作時間含む)

よって、時間最大排水量は、

$$\text{○ℓ／台} \times (60 \text{ 分} \div \text{○分／台}) = \text{○m}^3/\text{時間}$$

### ○油水分離槽

有効容量 (m<sup>3</sup>) 2.04 m<sup>3</sup>

(600mm×1,000mm×800mm×4槽)

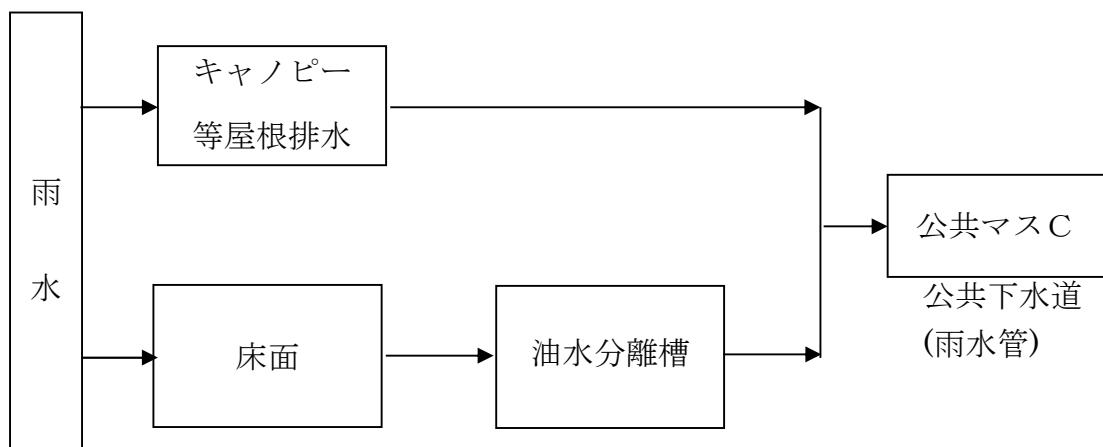
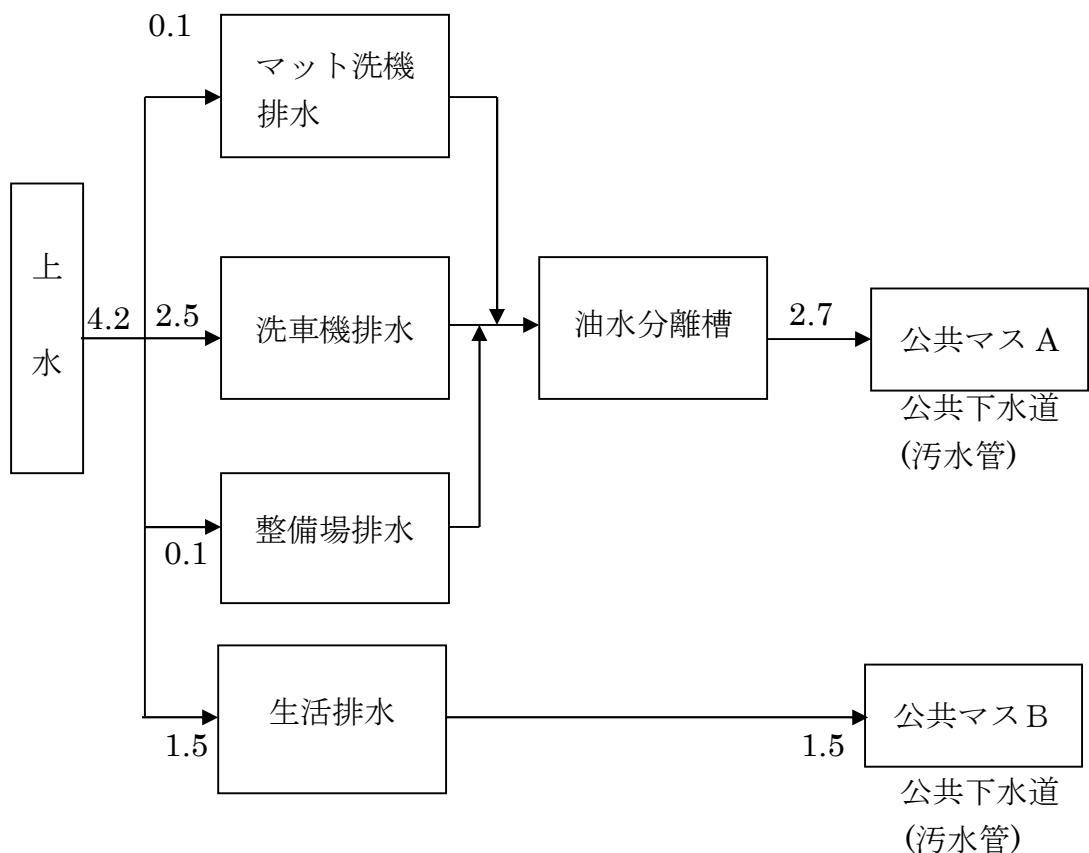
ゆえに、油水分離槽の滞留時間 (時間) は

有効容量 (m<sup>3</sup>) ÷ 時間最大排水量 (m<sup>3</sup>／時間) = 滞留時間 (時間)

$$2.04 \text{ m}^3 \div \text{○m}^3/\text{時間} = \text{○時間}$$

添付第5図

● 用排水のバランスシート（単位：m<sup>3</sup>／日）（別紙5一口）



(注)

水量を記入し、用排水の水量を合わせる。（別紙5参照）